

## 主題：神の奥義の執事

メッセージ 12

### 旧約の予表と型の成就における神の奥義としてのキリスト（3）

聖書：出 25:8-40. 30:1-10. ヨハネ 1:14. 6:35. 8:12. ローマ 8:34. コロサイ 2:9

VI. 旧約において、キリストはすべての調度品を伴う幕屋によって予表されています——出 25:9. ヨハネ 1:14. ヘブル 9:1-5. 10:20：

A. 神がモーセに命じて建造した幕屋は、肉体と成られたキリスト、すなわち肉体にあるキリストの予表です——出 25:8-9. ヨハネ 1:14：

1. キリストは肉体と成ることを通して、人の性質を着て、人性における神の明確な表現となりました。神たる方の全豊満は、キリストが肉体と成られた時から、明確な方法で幕屋としての彼に住み始めました——コロサイ 2:9。
2. キリストは肉体と成ることを通して、神を人性の中へともたらしただけではなく、人性において、地上における神の住まいとしての神の幕屋となりました。神は肉体と成ることを通して人と成られ、彼自身を人性とミングリングして、ご自身の住まいとなりました——ヨハネ 1:14。
3. 肉体と成られた神であるキリストは、神の具体化であって、手段としての人性において神の住まいと成られました。それによって、人は神と接触し、神を受け、彼を享受することができるようになりました——14節。
4. 神たる方の全豊満は真の幕屋としてのキリストの中に具体化されました。それは、わたしたちが神の中へと入って、彼を享受するためです——コロサイ 2:9：

a. 神はわたしたちの享受のために、真の幕屋であるキリストの中で具体化されました——ヨハネ 1:14, 16：

- (1) 神の住まいは、神が彼の民のための享受となる場所であり、神の民が神ご自身の完全な享受にあずかる場所です——17節。
- (2) 肉にあるキリストは神を人にもたらず幕屋です。それは人が神を享受するためです——14節。

b. 幕屋の予表は、神が肉体と成ることにおいて入ることのできる方とされたことを示しています——14:20：

- (1) もともと神は奥義的で、目に見えず、近づきがたく、触れることのできない方（I テモテ 6:16）でしたが、今や入ることのできる幕屋に具体化されました。それゆえ、彼は入ることのできる神です。
- (2) わたしたちが入ることのできる神は、神・人であるキリスト、すなわち、肉体と成られた三一の神であり、三一の神の具体化です——コロサイ 2:9。
- (3) わたしたちは祭壇（キリストの十字架——ヘブル 13:10）と洗盤（キリ

ストの死の結果である命を与える霊の洗う力—— I コリント 15:45 後半) を経験した後、資格づけられて、幕屋によって表徴される肉体と成られた神の中へと入ります——出 27:1-8. 30:17-21。

- B. 証しの箱は、神の真の証しであるキリストの予表であり、キリストは神であるすべての具体化であり、表現です—— 25:10-22 :
1. 神の証しの具体化として (律法—— 20:1)、契約の箱は、神の具体化としてのキリストを予表します——コロサイ 2:9。
  2. キリストの予表としての契約の箱が示しているのは、神の贖われた民がキリストの中で、またキリストを通して、神と接触することができるということです——出 25:17-22. ヨハネ 14:6. ヘブル 10:19-20。
  3. 幕屋の中心また内容として、契約の箱がまた表徴しているのは、キリストが召会の中心また内容であること、キリストが首位を持っていること、キリストのからだである召会がキリストから出て来るとということです——コロサイ 1:18。
- C. 臨在 [供え] のパンの机は、わたしたちの命の供給としてのキリストを表徴します——出 25:23-30. ヨハネ 6:35, 57 :
1. 特に、臨在 [供え] のパンの机が表徴しているのは、神の祭司である信者のための養う宴席としてのキリストです—— I ペテロ 2:5, 9. 啓 1:6。
  2. 出エジプト第 25 章において、机は契約の箱の後に来て、契約の箱と関係があります：
    - a. わたしたちがキリストの上で神と会い、神と交わり、彼の口からの言葉 (22 節) を聞くとき、契約の箱は臨在 [供え] のパンの机となり、そこでわたしたちは養う宴席を享受します。
    - b. これが意味するのは、神の証しの具体化としてのキリストは、わたしたちが彼を享受するという結果になるということです。さらに、経験においてわたしたちがキリストを享受することは、常にわたしたちを神の証しとしての彼に連れ戻します。
  3. キリストの中で、彼の人性 (アカシア材) がわたしたちの享受のための基本的な要素であり、彼の上には神の表現としての神性 (金) があります。わたしたちは彼を命の供給として享受すればするほど、ますます彼を表現します—— 23-25 節。
- D. 燭台が表徴しているのは、キリストが彼の神性において命の光であり、神の選びの民を照らすということです—— 31-40 節。
1. 燭台が臨在 [供え] のパンの机の後に来るという事実が示しているのは、光が命の供給の後に来るとということです。わたしたちがキリストをわたしたちの食物として享受するとき、命の光を持ちます——ヨハネ 1:4. 6:35. 8:12。
  2. キリストの予表として、燭台が描写しているのは、復活の命としてのキリストが成長し、枝を出し、芽を出し、開花して光を輝かし出すということです。

3. 燭台は三一の神を暗示します。金は実質としての御父を表徴し、台は御父の具体化としての御子を表徴し、ともし火は、御子における御父の表現としてのその霊を表徴します。
- E. 香壇は、キリストがとりなす方として神と彼の民との関係を維持しておられることを表徴しています——出 30:1-10. ローマ 8:34. ヘブル 7:25 :
1. 祭壇そのものは、キリストのパーソンの予表であって、彼の祈りの予表ではありません。それはキリストが祈っており、またとりなしておられることを表徴しています。
  2. わたしたちと神との関係を維持するために、わたしたちはキリストをとりなす方として必要とします——ローマ 8:34. ヘブル 7:25。